（別記）

令和８(2026)年度 柏崎市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域の農業は、稲作が中心で主食用米と併せて新市場開拓用米、加工用米、飼料用米、WCS 用稲等を生産している。

また、水田を活用し、ほ場整備済みの地区は大豆を、中山間地ではそばを中心とした作付が行われており、さらに、えだまめ、たまねぎをはじめとした園芸品目の生産拡大を推進し、定着に向けた取り組みを強化している。

課題としては、水田地帯ではあるが、ほ場整備率は県平均よりも低く、生産環境の改善が必要になっている。また、近年、農業者の高齢化により経営規模や地域を問わずに離農が進むなどしており、担い手の確保と効率的な経営に向けた農地集積・集約が必要となっている。

このため、地域の大切な生産資源である水田をフル活用し、稲作においては主食用米、非主食用米を組み合わせて、極早生から晩生までの多様な品種を作付けすることで、気象変動への対応と作期拡大、作業分散などによるリスク低減とコスト低減などを推進する。また、生産性の高い農業経営を確立して、農業者の所得確保を図る。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の所得向上と水田の有効活用に向けて、園芸作物等の高収益作物の導入拡大と併せて需要に応じた米生産を展開する。

園芸作物の生産では、JA えちご中越が運用する「えだまめ集出荷施設」や「たまねぎ乾燥設備」の活用や機械化体系の定着等により生産・出荷体制を強化し、長期安定出荷体制を構築することで信頼される産地づくりを目指すとともに、品質・収量の向上及び園芸生産ほ場への二毛作の取組を進め、所得の向上を図る。

また、JA えちご中越のブランドである「越後はちこく茶豆」のブランド確立に取組み、販売力強化を図る。

さらに、令和４年度から農業者が行う農業用ドローンでの農作業受委託事業（事務局：JA えちご中越かしわざき営農センター）の利用拡大等により、省力・低コスト生産技術の導入・定着をさらに図っていく。

米生産では、需要に応じた生産を確実に展開するため、引き続き、非主食用米を推進し、稲作での所得の確保・安定を図っていく。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農地集積により経営体の経営面積が拡大しており、水田を農地として適切に維持・管理できる農作物の選定が重要である。

このため、水稲は極早生から晩生までの品種構成を推奨するとともに、大豆やそばへの取組推進や、ほ場整備の実施と併せて、えだまめ等の園芸品目の導入を図り、農地の有効利用に取り組んでいく。

また、JA えちご中越「柏崎えだまめ生産部会産地推進計画」に基づいて、畑地化の取組を推進していく。

営農計画書管理システムによる水田の利用状況の点検とその結果を踏まえて、水田において水稲を組

み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみの生産を継続しているほ場について現地確認等で点検を行う。

そのうえで該当水田については、畑作物の連作障害対策や畑地化支援の活用、地域におけるブロックローテーション体系の構築などの観点から、連作障害回避の取組や畑地化についての協議を引き続き進めていく。

4　作物ごとの取組方針等

水田を水田として活用する取組を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、効率的な農業生産と所得の拡大を図っていく。

（1）主食用米

基幹の品目と位置づけ、需要に応じた生産と安全・安心な売れる米づくりの取組を推進する。

ア　家庭用米

需要に見合った生産を継続する。

早場米地帯としての特色を活かした県内一早い新米「葉月みのり」による産地のイメージアップと、「こしいぶき」「コシヒカリ」「新之助」などによる作期分散と多様な品揃えによる需要に応じた生産を推進し、安定した経営を目指す。

また、中山間地域では立地条件を活かした付加価値の高い米づくりを進める。

イ　業務用米

国内観光やインバウンドの拡大により回復してきた業務用米需要に的確に対応するため、実需者の要望を踏まえた多収性品種「ゆきん子舞」「にじのきらめき」等による生産を行い、併せて低コスト生産の取組を推進する。

（2）備蓄米

買入数量に応じた安定した取組を推進する。

（3）非主食用米

ア　飼料用米

主食用米の価格が上がっている中ではあるが、一定の生産者所得が見込めることや作期分散の観点から、本年度も引続き、単収増の取組と継続・定着に向けた働きかけを継続する。多収品種「新潟次郎」による区分管理による作付に限定した生産とし、戦略作物助成の最大化と生産コストの低減、収量の高位安定に取組み収益力の向上を図る。

イ　米粉用米

県内製粉業者からの要望に応えられる米粉用米の生産の検討を進める。

ウ　新市場開拓用米

国内の米の消費や需給環境に的確に対応する中で、有望なマーケットである新市場開拓に向け、「コメ新市場開拓等促進事業」を活用して、新市場での需要拡大に応えることのできる体制の整備・構築と複数年契約の推進による安定供給を図り、生産拡大に取り組む。

併せて、新市場開拓用米の生産の継続・定着を図るため、協議会として生産コストの低減に向けた取組に対して、産地交付金の地域枠により独自に支援を行う。

エ　WCS 用稲

当地域では令和４年度に試験的に生産し、令和５年度から本格的な生産が行われており、地

域外への流通にも継続して取り組む。

水田の有効利用、経営体の作期・作業分散からも優れていることから、水田活用の農作物の主要な品目として定着と広域流通を見据え、生産性向上と生産拡大を図る。

オ　加工用米

新市場開拓に向け、「コメ新市場開拓等促進事業」を活用しながら、実需者ニーズに応えることのできる生産を進める。

また、地元柏崎市内の製菓業者からの要望に応えた品種での生産に取り組む。

併せて、加工用米の生産の継続・定着を図るため、協議会として生産コストの低減に向けた取り組みに対して、産地交付金の地域枠により独自に支援を行う。

（４）麦、大豆、飼料作物

○麦

需要に応えるため、作付面積の拡大と排水対策・団地化の実施により生産量の確保を図っていく。

○大豆

需要に対応するため、ほ場整備地区を中心に、作付面積の拡大と大豆 300A 技術の取組による品質・収量の高位平準化と、団地化等による生産コストの低減を推進する。

○飼料作物

地域の畜産農家の需要に応じるため、必要に応じて取り組む。

（５）そば

中山間地域における重要な品目として位置づけており、実需と結びついた作付けを推進する。

取組に当たっては、作付面積の拡大と排水対策・団地化の実施による収量の高位平準化を図っていく。

（６）地力増進作物

高収益作物への転換に向けた土づくりとして取組の推進を図っていく。

（７）高収益作物

地域園芸振興プラン計画の実現に向け、産地交付金を活用して、えだまめ・たまねぎをはじめとした園芸品目の生産拡大を図る。

生産者が取り組みやすい環境整備と市場へ安定的に供給できる生産体制をつくり、市場から高い評価を得られる産地を確立する。

中心的経営体の園芸による所得確保を図るため、カリフラワー、ブロッコリー、さといも、にんじん、キャベツの取組を支援する。また、かぼちゃについては、安定的な収入確保が見込める契約を基本とした生産に対して支援する。

農地の高度利用による生産拡大と所得確保を図るため、たまねぎ、えだまめ、大豆を基幹作とするカリフラワー、ブロッコリー、キャベツ、たまねぎの二毛作の取組を推進する。

これらの支援を有効に活用して、水田フル活用による農業所得の最大化を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	2,900.4		2,715.0		2,715.0	
備蓄米	0.0		200.0		200.0	
飼料用米	158.3		110.0		110.0	
米粉用米	0.0		0.0		0.0	
新市場開拓用米	35.3		35.0		35.0	
WCS用稲	23.7		26.0		26.0	
加工用米	69.6		75.0		75.0	
麦	1.7	1.3	6.0		6.0	
大豆	49.5		45.0		45.0	
飼料作物	0.0		0.0		0.0	
・子実用とうもろこし	0.0		0.0		0.0	
そば	6.2		10.0		10.0	
なたね	0.0		0.0		0.0	
地力増進作物	0.0		0.0		0.0	
高収益作物	29.2	2.4	37.0	5.0	37.0	5.0
・野菜	29.2	2.4	37.0	5.0	37.0	5.0
・花き・花木	0.0		0.0		0.0	
・果樹	0.0		0.0		0.0	
・その他の高収益作物	0.0		0.0		0.0	
その他	0.0		0.0		0.0	
・〇〇	0.0		0.0		0.0	
畑地化	0.7		0.0		0.0	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大豆（基幹作）	収量向上取組支援（大豆）	取組面積	（令和7年度）49.5ha	（令和8年度）45.0ha
			10a当たり収穫量	（令和7年度）113kg/10a	（令和8年度）240kg/10a
2	園芸地域推進8品目（たまねぎ、えだまめ、カリフラワー、ブロッコリー、さといも、にんじん、キャベツ、かぼちゃ（基幹作））	生産定着拡大支援（園芸地域推進8品目）	取組面積	（令和7年度）26.8ha	（令和8年度）32.0ha
3	園芸地域推進品目のうち（基幹）大豆・たまねぎ・えだまめ＋（二毛作）たまねぎ・カリフラワー・ブロッコリー・キャベツ	農地の高度利用支援（園芸二毛作）	取組面積	（令和7年度）2.4ha	（令和8年度）5.0ha
4	そば（基幹作）	生産拡大支援（そば）	取組面積	（令和7年度）6.2ha	（令和8年度）10.0ha
			10a当たり収穫量	（令和7年度）43.6kg/10a	（令和8年度）50kg/10a
5	飼料用米（基幹作）	低コスト生産等取組支援（飼料用米）	取組面積	（令和7年度）—	（令和8年度）110.0ha
6	WCS用稲（基幹作）	生産拡大支援（WCS用稲）	取組面積	（令和7年度）23.7ha	（令和8年度）26.0ha
7	加工用米（基幹作）	低コスト生産等取組支援（加工用米）	取組面積	（令和7年度）69.6ha	（令和8年度）75.0ha
8	新市場開拓用米（基幹作）	低コスト生産等取組支援（輸出用米）	取組面積	（令和7年度） 35.3ha	（令和8年度）35.0ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:新潟県

協議会名：柏崎市農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	収量向上取組支援 （大豆）	1	13,000 （上限単価：26,000）	大豆（基幹作）	（必須）開花期以降の基幹防除2回、50a以上の連担団地等 （選択）耕うん同時畝立て播種、周囲明渠等
2	生産定着拡大支援 （園芸地域推進8品目）	1	20,000 （上限単価：40,000）	園芸地域推進8品目 たまねぎ、えだまめ、カリフラワー、ブロッコリー、さといも、にんじん、キャベツ、かぼちゃ（基幹作）	・出荷・販売面積に応じて支援 ・対象となる面積は、単品目で10a以上
3	農地の高度利用支援 （園芸二毛作）	2	25,000 （上限単価：49,000）	園芸二毛作推進 大豆、たまねぎ、えだまめ（基幹作）+たまねぎ、カリフラワー、ブロッコリー、キャベツ（二毛作）	・対象となる面積は、単品目で10a以上
4	生産拡大支援 （そば）	1	5,000 （上限単価：10,000）	そば（基幹作）	排水対策の実施、ほ場の団地化　等
5	低コスト生産等取組支援 （飼料用米）	1	5,000 （上限単価：8,000）	飼料用米（基幹作）	低コスト生産等の取組の実施
6	生産拡大支援 （WCS用稲）	1	5,000 （上限単価：10,000）	WCS用稲（基幹作）	生産性向上の取組の実施
7	低コスト生産等取組支援 （加工用米）	1	7,000 （上限単価：14,000）	加工用米（基幹作）	低コスト生産等の取組の実施
8	低コスト生産等取組支援 （輸出用米）	1	5,000 （上限単価：10,000）	新市場開拓用米（基幹作）	低コスト生産等の取組の実施

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。